

旧尼崎警察署の留置場。現在、留置場は「あまがさき城内フォーラム」の時に公開される。左奥に見える低い壁の裏が水洗便所

旧尼崎警察署・留置場



# 昭和の面影 伝え

はんしんタイムズ  
写真・文 山田哲也



阪神尼崎駅の南東に広がる城内地区は、かつて市役所があり官庁街として栄えた。今は学校や住宅に変わり往時をしのぶ施設は少ない。

その中、旧尼崎警察署(同市北城内)の庁舎は面影を伝える唯一の建物となった。

同署は鉄筋コンクリート建てで地上2階、地下1階の3層構造。左右対称で安定感がある白亜の建物で、中央の正面玄関の階段を登ると1階フロアになっている。2階に講堂や道場などがあった。

建設時の状態を今に残しているのが地下の留置場や取調室だ。地階に降りると風通しが悪くカビ臭い。薄暗い廊下を進み

鉄格子の扉を開けると留置場が6室並んでいる。

留置場は幅、奥行きとも約3m、奥の隅に水洗便所がある。扉には細かな鉄の網が張られ中が監視できる。壁に留置された暴力団員が組名を掘った落書きも残っている。

旧尼崎警察署は呉宮繕長だった置塩章が設計し1926(大正15)年11月に竣工した。尼崎中央警察署の庁舎が完成する1970年まで市民の安全を守ってきた。

その後、土地建物が尼崎市に移管され、城内児童館として使われたが阪神大震災で被災し、96年から閉鎖されている。

城内地区には旧阪神電鉄発電所や旧城内中学など近代建築物が残っている。地域住民が中心となって建築資源の活用を考えたイベント「あまがさき城内フォーラム」が、旧尼崎警察署を会場に3年前から開かれている。

阪神電鉄・尼崎駅下車。南東へ徒歩10分。問い合わせは、尼崎市都市政策課(06・64889・6147)。